

デューラー研究 第19

デューラーの「絵画論」(5)

男性および女性均衡論の試訳

美術学科

下村耕史

Dürer's Drafts of his "On Painting"(5)
a translation by Koji SHIMOMURA

序

本稿は前4回の報告(第20巻, 1989年, 第22巻, 1991年, 第23巻, 1992年, 第24巻, 1993年)と同じく, *Dürer: Schriftlicher Nachlass*, herausgegeben von Hans Rupprich. Zweiter Band, Berlin. 1966を底本として試みられたデューラー未完の「絵画論」の草稿の訳である。凡例は前回に従う。

(承前) Nr. 29~Nr. 33は図を中心とした断片的記述のため省略。

Nr. 34 線 dd ee 上の8頭身男性像(Nr. 33の1の図)の〔男性像 DD EE への〕部分的変更。第2の8頭身男性像。(ロンドン草稿, 1513年後, R. 2. 221~222頁)

線 dd ee 上の前記男性像をもう一度描くが, それを幾つかの部分で変更する。最初に長さ。

頭頂部から肩肉の高さまで〔全長の〕1/7にする。
のどの凹みから 胸まで1/24である。

〃 後ろの腋下まで1/12である。

脇腹から 臍まで1/40である。

〃 腰まで1/30である。

〃 腹の下端まで2/19。

〃 臀部の下端まで2/13。

足裏から膝中央まで2/7である。

膝中央から 大腿部の切れ目まで1/8である。

〃 その上の別の線まで1/6である。

足裏から足の甲の高さまで1/20である。

〔以上の変更〕以外の肢体部の長さは前記〔図でしか示されていないが〕のままである。

次に男性側面像の厚さを幾つかの部分で変更する。

男性頭部の厚さは 眉毛の線上で1/9である。

〃 鼻上で1/19+1/20。

頸部の厚さは 顎下で1/15。

〃 肩肉の線では1/14。

〃 のどの凹みで1/11。

〃 胸上で1/8。

〃 前の腋で2/15。

〃 乳頭上で1/14+1/15。

〃 脇腹では1/17+1/16。

〃 臍上では1/9。

〃 腹の下端では1/8。

大腿部の厚さは 臀部の下端で2/19である。

〃 膝上の下で1/15。

ふくらはぎでの脚の厚さは1/14より僅かに大きい。

外側のふくらはぎの下端での厚さは1/14。

内側のふくらはぎの下端での厚さは1/15。

次に腕の側面の幾つかの部分を変更する。

腋下の厚さを1/16にする。

力こぶ中央の厚さも1/16。

その下の肘にちかい方の厚さは1/20。

肘の厚さは1/23。

肘下の腕の強部〔厚さの数値なし〕。

体部に重ならないように, 男性側面像の腕を別

に図示する。

8 頭身男性像の長さ

次の男性像についても、以下のように、3本の垂線上に記す。

頭頂部から足裏の下端までの長さを1とする。

足裏から全長の中心までは1/2である。

男性像はその中心から上に〔臀部が〕割れる。

頭頂部から顎下まで1/8である。

顎から額の上端まで1/10である。

この1/10を2点で3等分する。最下部は口と顎、次は鼻と耳、上は額に当たり、その上の部分は頭部である。

Nr. 35~Nr. 40は省略

Nr. 41 9 頭身男性の側面・正面・背面像。腕。

(ロンドン草稿, 2 は1513の年記, 3 は1513年頃, R.2.226~228)

1

頭部〔の長さ〕が1/9とされたので、その他の肢体部分を作ることにする。側面像から始める。その図に肢体部分の全ての長さが含まれる。

頭部をその位置に描く。それ全体で男性全長の1/9になる。

頭頂部からのどの凹みまで1/7である。肩の高さもその〔のどの凹みの〕線に接する。

のどの凹みから脇腹まで2/11である。

のどの凹みから臍まで1/5である。

のどの凹みから胸の乳頭部まで1/10である。

のどの凹みから胸下まで1/9である。

のどの凹みから腋下まで1/14である。

脇腹から腰まで1/11である。

腰上の肉体は臍下1/11の中央で分かれる。

臍から腹の下端まで1/10である。

臍から陰茎まで1/9である。

男性全長の中心。その線上に臀部の下端がくる。

足裏から1/20上の線は足の高さに接する。

膝窩は腰と足の高さの中央にある。膝全体はそ

の上1/28とその下1/28の2部分に含まれる。

膝中央からふくらはぎ下端まで1/7である。

臀部から1/11下の所に、大腿部の肉に切れ目がある。

以上で身体の長さを決めたので、次に腕の長さを測る。

肩の高さから肘まで1/5である。肩肉の下端はその中央にある。

肘から指先まで1/4である。手の背面は1/11である。

全ての長さが決められたので、〔長さを区切る〕同じ線上に肢体部の厚さを測ることにする。

脛部の厚さは1/16である。

のどの凹みの線上の厚さは1/14。

肩での厚さは1/12。

腋の線上での厚さは1/15。

胸の乳頭での厚さは1/7。

胸下の厚さは1/8。

脇腹での厚さは1/9。

臍の上の厚さは1/9。

腰での厚さは1/8。

腹の下端での厚さは1/8。

陰茎の線上での厚さは1/8。

臀部の下の大腿部の厚さは1/10。

その1/11下の厚さは1/12。

膝上の厚さは1/15。

膝中央の厚さは1/17。

膝下の厚さは1/19。

ふくらはぎ中央の厚さは1/15。

ふくらはぎの下の厚さは1/18。

足の上の厚さは1/28。

足の厚さは1/25。

足の長さは1/7。

次に腕の側面の厚さに注目する。

肩での厚さは、前記のように、1/12である。

肩の下端の、腋下での厚さは1/18。

力こぶでの厚さは1/19。

肘での厚さは1/25。

その下の、腕の最も太い部分の厚さは1/22。

その下の厚さは $1/32$ 。

手の〔関節での〕厚さは $1/42$ 。

手の厚さは $1/30$ 。

以上で男性側面像は描かれる。次に正面像を測る。

男性正面像の各肢体部の全ての長さを、前記男性側面像のままとし、正面像の全ての幅を前記の線上にとる。

脛部の幅は $1/18$ である。

のどの凹み上の肩幅は $1/6$ である。そこから肩は始まる。

肩上の幅は $2/9$ である。

両腋間の幅は $1/6$ である。

脇腹での幅は $1/7$ 。

腰上の幅は $1/6$ 。

陰茎上の体の幅は $2/11$ 。

男性中央の、臀部の下の大腿の幅は $1/11$ である。

その $1/11$ 下の幅は $1/14$ である。

膝上の幅は $1/17$ 。

膝の幅は $1/19$ 。

膝の僅か下の幅は $1/20$ 。

ふくらはぎ中央の幅は $1/16$ 。

ふくらはぎ下端の幅は $1/22$ 。

足上の脚部の幅は $1/35$ 。

足の上部の幅は $1/18$ で、後ろの踵の幅はその半分である。

次に腕の正面の幅を測る。

肩下の腕の幅は $1/26$ である。

肘上の幅は $1/28$ 。

肘下の最も太い部分の幅は $1/21$ 。

肘から $1/11$ 下の幅は $1/28$ 。

手の〔関節での〕幅は $1/38$ 。

手の幅は $1/20$ 。

以上の記述の全てを次に図示するので、それに従って、数字が指示するように、描くことができる。

2 と 3 は省略。

Nr.42~Nr.47は省略

2. 女性の比例

Nr. 1. 8 頭身女性の側面像の比例。(ドレスデンのスケッチ帳から, 1507年, R.2.231頁)

〔図 1 に次の文字が書かれている〕

〔膝の右に〕 $1/11 \times 2/3$ 。

〔脚部に〕 $1/11 \times 2/3$ 。

これもすでに1507年に作られた。

〔この年記はデューラーによる後の書き込み。女性の立像は $1/6$ 方形のネットによる構成〕。

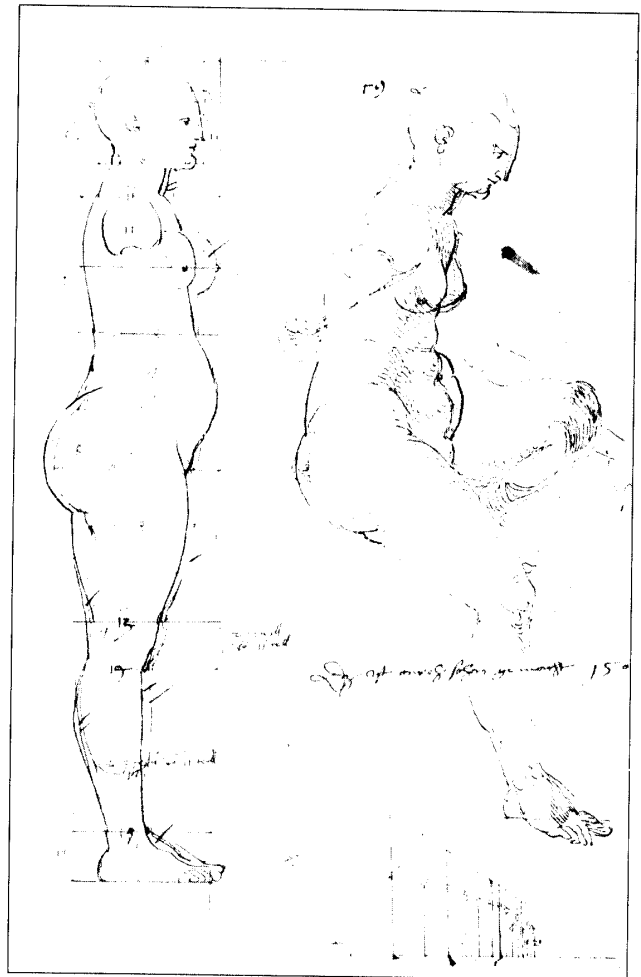


図 1 ドレスデンのスケッチ帳, fol. 151 r. Strauss 16

Nr. 2 若い女性の比例。頭部は全長の $1/9$, 顔は $1/11$ 。(ロンドン草稿, 1507/08年, R.2.231~232頁) これは特別の比例である。

〔Nr.4は肥えた,Nr.5はまだ成長しきっていない若い女性の比例を示しているので、この1507/08年頃、デューラーは比例の多様なタイプについて考え始めていたことが分かる—ルップリッヒの注による〕

女性

女性の身長を任意に決め、その長さ分の線を引く。

その線の中心の下1/50の所に水平線を引く。

上の長い方の線分を3等分する。

その最上部には頭部と、のどの凹みまでの脛部が含まれる。

頭部は1/9である。

顔は1/11である。

第2の1/3の線分には、のどの凹みから脇腹まで含まれる。

頭頂部から腋下まで1/5。

肩とのどの凹みの間は1/18である。

肩の丸みは、顎とのどの凹みの間の、肩関節の上端にまでくる。

顎から胸のくぼみまで1/8である。

胸の乳頭は〔くぼみと〕同じ高さにある。

〔最下の〕1/3の線分には脇腹から陰部の端まで含まれる。

陰部の下端から臍まで1/8である。

陰部の端から臍の始まる臀部の端まで1/25。

足の甲と足裏の間は1/18である。

のどの凹みと足の甲の間は3等分される。それを区切る2線のうち、第1線は腰の端を、第2線は膝中心を通る。

この像は以上のように測られた。

Nr.3 女性の比例。断片。(ロンドン草稿, 1507/08年, R.2.232~233頁)

〔正中線の意味の〕中央で陰部の端から臍まで2/17である。

中央で陰部の端から脇腹まで1/7である。

臍からのどの凹みまで2/9である。

のどの凹みから上の〔測るべき〕長さは脛部と頭部である。

のどの凹みから頭頂部まで長さは、腹部の背面から臀部の端までと同じである。

脇腹から腰まで1/10である。

足裏から脚部の発端の踝まで1/30である。

腰と踵間を中央で2分する。

その中央が膝蓋骨である。

Nr.4 太った女性。頭部：3素描（側面・正面・平面）の構想，側面・正面図の作成。身体：側面・正面・背面像。身体の屈折。（1~2，4~5はロンドン草稿，3はドレスデンのスケッチ帳から，1508年，R.2.233~239頁）

1

顔を描くには、次のようにする。

3方形を描き、並立させる。

顔の側面のための最初の方角は、その人の全長の1/8を高さとする長方形である。

顔の正面の高さは側面と同じであるが、幅は全長の1/10である。人の顔の正面は側面より細いからである。

顔の側面図の下の3番目の方角は、顔の〔側面と正面の〕2つの観面の平面図であり、これは、顔の側面と正面の全ての高さと幅を与える、平行線と呼ばれる線から作られる。

次図でも、いま述べた或る方形から他の方形へと引かれる線が直径 (diameter) により... のが見られる。それは斜線 (ortstrich) で、〔それにより顔の〕全ての高さと低さ、全ての幅と深さを〔平面図に〕示す線が見いだされる。〔...はテキスト上の欠如部分。以下同じ。ここではおそらく「転移される」が補われる。図2を参照。〕さて長方形の顔の側面図から〔描き〕始めることにし、その〔諸部分の〕高さを水平線で区切り、〔それらの線を延長して〕顔の正面図の方角を通らせ、〔正面図で〕新たな高さを測らなくてもよいようにする。

頭頂部から顎下のふくらみまで身長1/7であるが、1/8の高さの長方形では顎の位置を1/8×1/20だけ上げ、その位置に水平線を引く。

顎から髪際額の端まで1/10である。上の残り

は頭部になる。

〔身長の〕 $1/10$ の顔を3等分する。最上部は額、次は鼻、最後に口と顎である。

鼻の高さを4等分する。鼻翼はその最下部で、耳朶もそこにはいる。耳の下端は鼻の下端の水平線上になる。耳の上端は眼を通る線に接する。

その上の他の部分は...〔前記4等分の〕上の部分は眼全体と眉毛に当たり、上の $1/4$ を区切る線fは眼の中央を通る。次図(図2)に数字を付して区切られているのをみるように、厚さはつねにその領域(幅のことか)の半分であるのが分かる。部分の上と下を実際にも見て、〔その相違を〕綿密に調べることである。側面図についても同様である。

鼻下から顎先までを中央で2分する。下部が顎である。

上部を中央で2分し、その線は口を通る。

〔その上部の〕上半分を2分する。その下半分は上唇の厚さになる。

〔中央で2分した〕下部を3分する。上の2部分は下唇の厚さになり、下の1部分は唇と顎の間のくぼみになる。

くぼみという場合、前から後ろへの深さについて述べている。

垂線(perpendiculars)と呼ばれる直立の線を〔頭部の〕方形の平面図の下まで下ろして、それらの線で顔の前から後ろまでの奥行きを扱うことにする。顔の側面図と正面図の高さについて前になしたのと同様、全ての奥行を再度測ることをこのようにして省くことにする。

さて〔顔の〕前から $1/8 \times 1/5$ 後方に垂線を引く。その線は $1/8$ の〔高さの方形の〕上下の水平線に接する。 $1/10$ という顔全体の長さを〔方形内の〕上の水平線から始める。その水平線をaとする。最下部の水平線をdとし、顎先はそこにある。顎下のふくらみの奥の方もその線上にある。

aからb, cからdに線を引いて交差させる。

〔bとcは初出であるが図2から、bは鼻先の、cは眉毛上の水平線を指す。またaは髪際の、dは顎先の水平線を指す。〕

〔顔の〕前から $1/8 \times 1/4$ 後方に垂線を引く。眼の

端はその線上にある。

斜線cdが線gに接する点で、垂線を引く。その線は目頭に接し、また顎の形とその反りを示す。〔線gは初出であるが図2から、顎の上端の水平線を指す。〕

その線は鼻翼の端にも接する。

更に2〔垂〕線を眼の〔水平の〕長さの範囲内に引く。前の線は眼球と口のくぼみに接する。前から $1/8 \times 1/3$ 後方の線は眉毛の後ろに接する。

〔顔の〕後ろから $1/8 \times 1/3$ と $1/8 \times 1/7$ の範囲内に耳の奥行きとその半分の幅の耳朶がはいる。

鼻先を通る水平線上で鼻先から〔身長の〕 $1/9$ 後方に垂線を引き、その垂線と額中央の髪際を通る水平線との交差点に、後頭部のつむじがある。首筋もhaのなす角度内にある。〔hは初出であるが図2から、後頭部のつむじを通る垂線を指す。aは髪際の水平線。〕

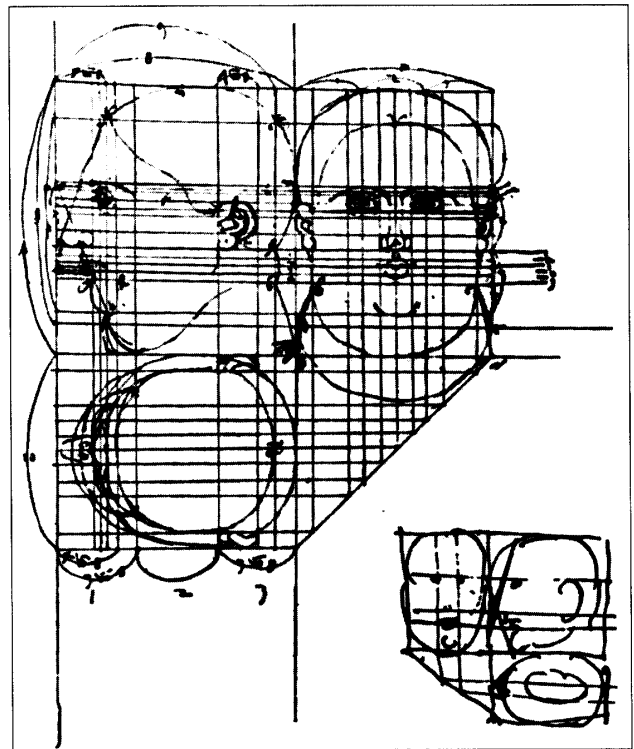


図2 ロンドン草稿 5231, fol. 10^b.

刊行される本に挿入されるために、図は木版で反転して彫られねばならない。

こうして一緒に記された。〔この項やや意味不明。文も図もともにの意か〕

以上のことが記された。次に形態の線の描き方を書く。それもなされた。

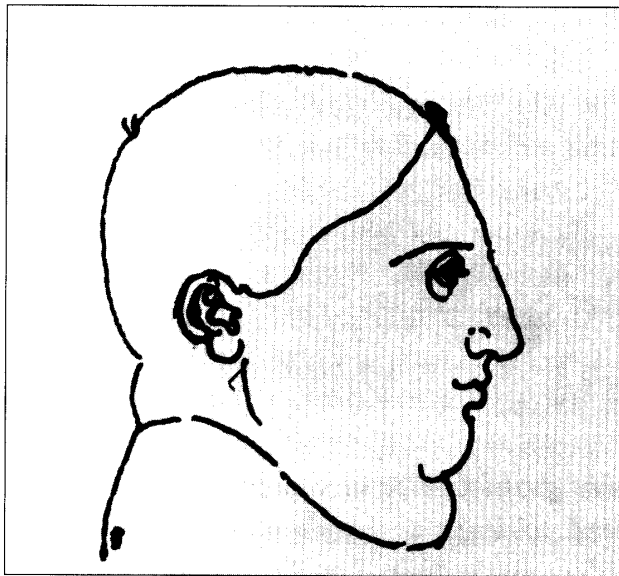


図3 ロンドン草稿 5231, fol. 11^b.

2

顔の正面図を描くのに、全長の1/10の幅と1/8の高さの方形を作る。

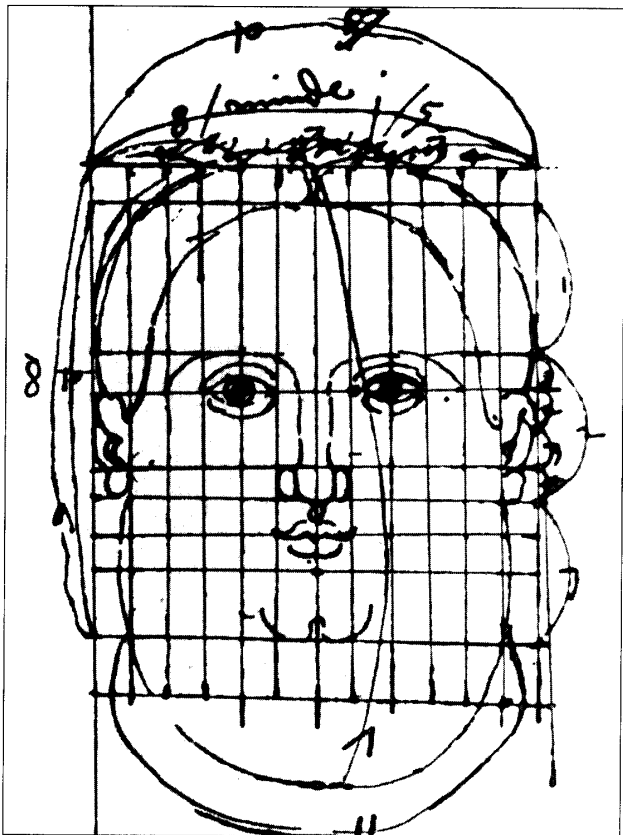


図4 ロンドン草稿 5231, fol. 12^a.

頭頂部から顎先まで1/9である。
 顎から額の髪際まで1/10である。
 頭頂部から顎下のふくらみまで1/17である。
 顔の長さ1/10を3等分する。最上部は額，中央は眼と鼻，最下部は口と顎である。
 顔の幅を垂線で12等分する。中央の2部分は鼻，口，顎の幅，その左右の各2部分は眼の幅，両端の各1部分は耳の厚さになる。
 (顔の長さ)1/10の上から見て中央1/3の，眼と鼻のある部分を4等分して上の1/4を水平線で区切れば，図に見るように，その水平線と垂線のなす交点上に眼球はある。

その1/3の部分の，下の1/4を水平線で区切れば，そこに鼻翼と耳朶はある。
 眼球を通る〔水平〕線は耳の上部に接する。

眉毛は鼻から両側方に伸び，鼻とともに12部分のうち8部分をしめる。

耳下に顎下のふくらみがあって，その幅は顎の

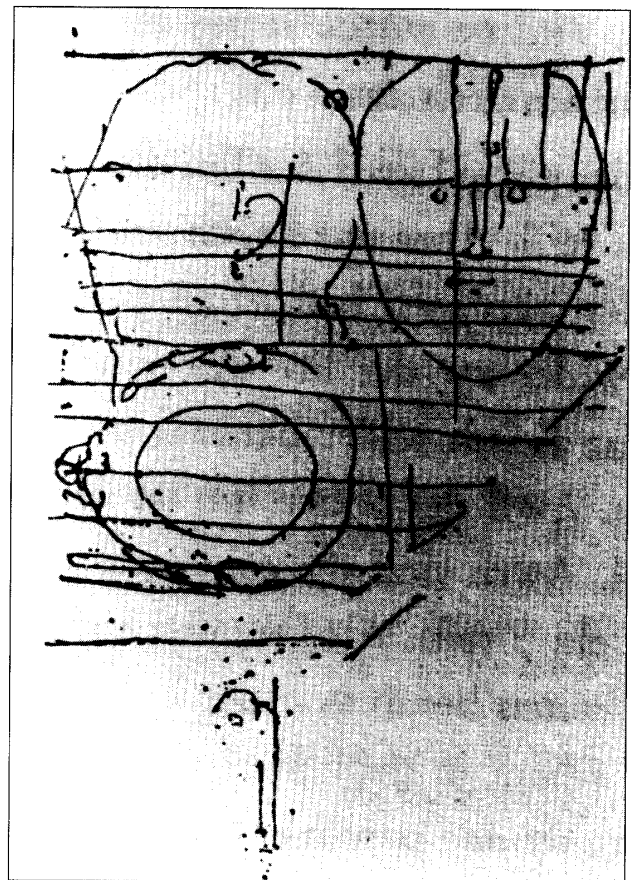


図5 ロンドン草稿 5231, fol. 12^b.

高い所で10部分あり、その弧は女性全長の〔上から〕 $1/7$ の所まで下がる。

額の上の頭頂部の高さは $1/9$ と $1/10$ の間である。

鼻下の〔上記〕 $1/3$ の部分を4分する。最上部は上唇、つぎは下唇、そのつぎの2部分は顎である。

2部分で上下になる2つの唇は、数字の付された図にみるように、1部分の厚さしかない。全ての図においても同様である。

3

〔図6に次の文が記されている。〕

臀部の弧を高さと同程度の大ききで横にも広げるべきである。

頭部をここに置く。

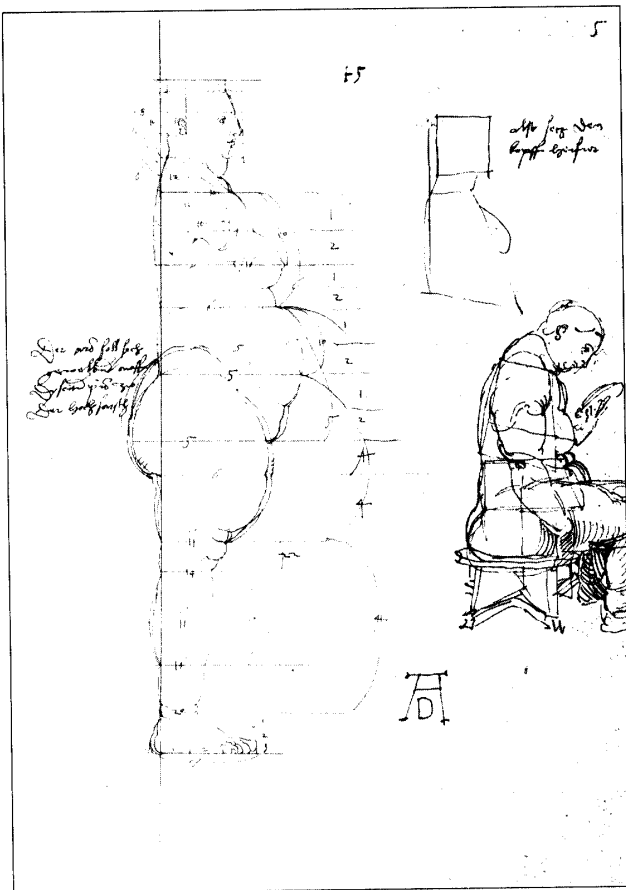


図6 ドレスデンのスケッチ帳, fol. 145 r. Strauss 17

4

〔図7に次の文が記される〕

正面の部分を描くには、垂線を引き、女性の側

面像の全ての水平線をそれに通させる。それらの線は〔その間の距離で〕肢体部分の全ての長さを示す。そして後にみるように、水平線上に全ての幅を定める。初めに頭部をとりあげ、その位置にそれを定める。

頭部の方形は胸の上であり、肩はその下から始まる。肩での体の幅は $1/6$ である。頸部は両側から上に高まり、頭部方形の〔両側からそれぞれ〕 $1/3$ の隅にいたる。脇腹での幅は $1/5$ である。腰の両端から上の a b まで2線を引く。〔図7から a と b は肩の高さの点を指す。〕それが胴体部の方形をなす。〔図7の〕線 c 上の肩幅は $2/9$ である。腋は両方とも胴体部の方形の〔側辺の〕線上にある。胸の乳頭間の幅は $1/7$ である。胸の膨らみは胴体部の方形内にある。脇腹は胴体部の方形の両側をこえる。腋下の腕の幅は $1/17$ である。力こぶ中央の腕の幅も $1/17$ である。〔肘〕関節の幅は $1/19$ 。肘下の腕の最厚部の幅は $1/18$ 。手の最下端〔手関節〕の幅は $1/30$ 。手の最広部の幅は $1/17$ 。

臍の線上での体の幅は $1/4$ である。脇腹の肉は両側に円く膨らみ、臍の線に向かって曲がる。そして肉はまた円く張り出して、腰の線にいたる。その線での体の幅は $2/7$ である。陰部の線上の大腿部の幅は $1/7$ である。このように胴体部の両側で身体は腰の線から陰部の線まで弧状になり、腹の下端では腰の線上より少し幅広くなる。腰の線の下に、胴体部と大腿部を区切り、腹の下端と陰部の分割を示す線までさがる線を引く。図に見るように、それを巧みになすことである。臀部の下端の線上の大腿部の幅は $1/8$ である。膝の屈伸部の幅は $1/12$ 。膝下の幅は $1/14$ 。ふくらはぎでの脚の幅は $1/13$ 。ふくらはぎ下の脚の幅は $1/18$ 。足首の幅は $1/24$ 。足の幅は $1/16$ である。

腰部、頸部、e f と記された脇腹部の水平線上では身体をその一方の側に曲げられるようにすべきである。〔図7で e f は脇腹の水平線上に記されている。〕他の肢体部では中央の垂線上でこれを曲げるべきである。膝の屈伸部と足の上でも曲げられる。肩と胴体部の線が結び付くどの凹みの線上で、肩を曲げる。その位置に o を記す。〔ルップリッヒの注

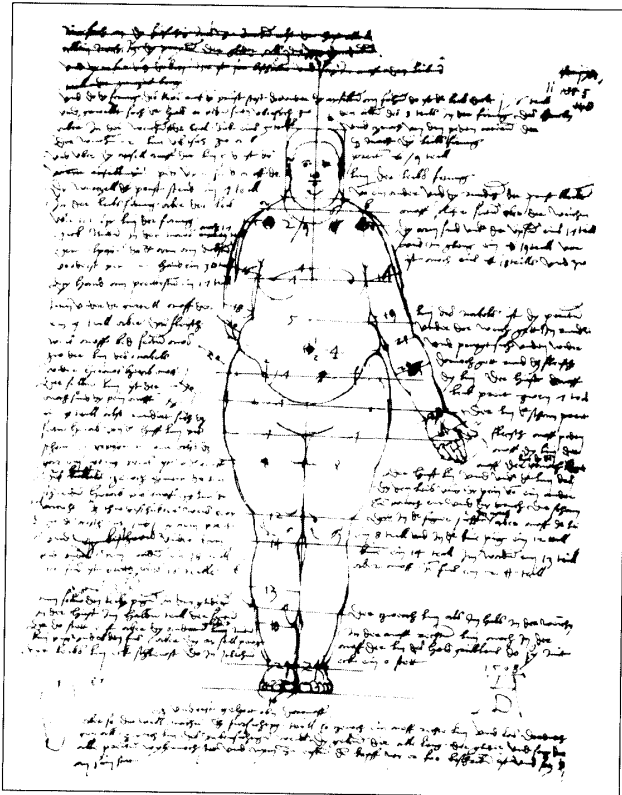


図7 ロンドン草稿 5231, fol. 5^a.

によれば、この草稿はデューラーが身体の屈折を比例習作に採り入れて、屈折点を文字で記した最初の箇所である。]

5

[図8に次の文が記される]

腹の形態の線を下端から、腰の線を通して円く上に次のように引く。つまり腰の線の間を〔縦に〕6等分し、両側の1/6を除いて中央の4/6を空白のままにする。〔図8に〕そこに e f と記されるのがみられる。大腿部の上の関節はそれら〔e f〕の点にある。腹の線をそれらしい形で臍の線の両端まで引く。

[図9に次の文が記される]

次に女性の背面像を正面像から作ることにして、その輪郭線を正面像同様に引く。後頭部から始め、後頭部のつむじを頭部中央の線上に、髪の下端をその線上に描き、頸の肥満部の線を引く。肩の高さから後ろの腋下まで1/9である。そして図にみるように、背中の線、肩、臀部、膝の屈伸部の形態線を引く。臀部の下端から分割の上端まで1/7であ

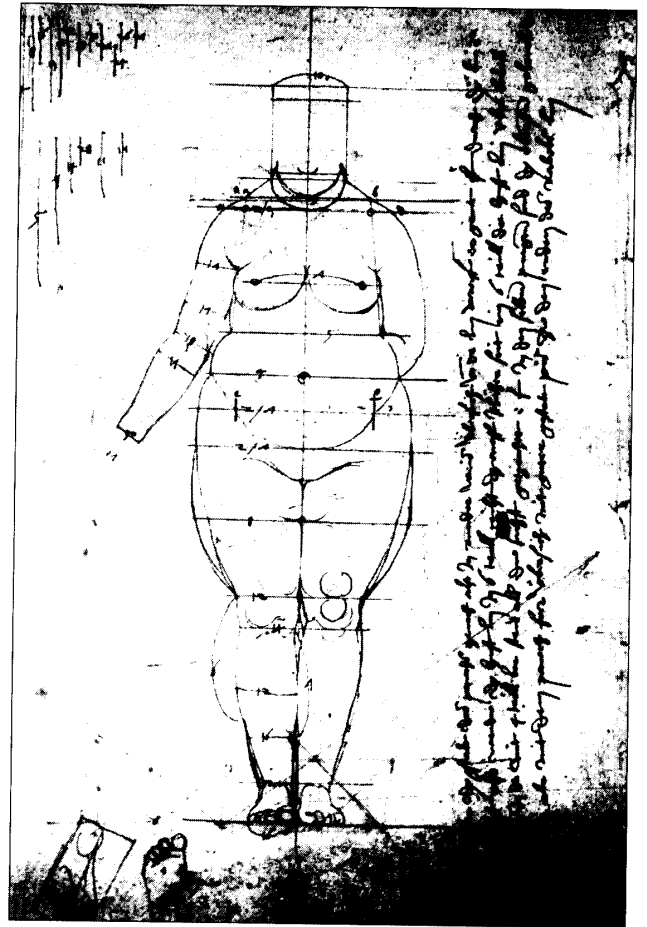


図8 ロンドン草稿 5228, fol. 134^a.

る。臀部の線を両側から上と最下端まで円く引く。踵の幅も足の前幅と同じである。

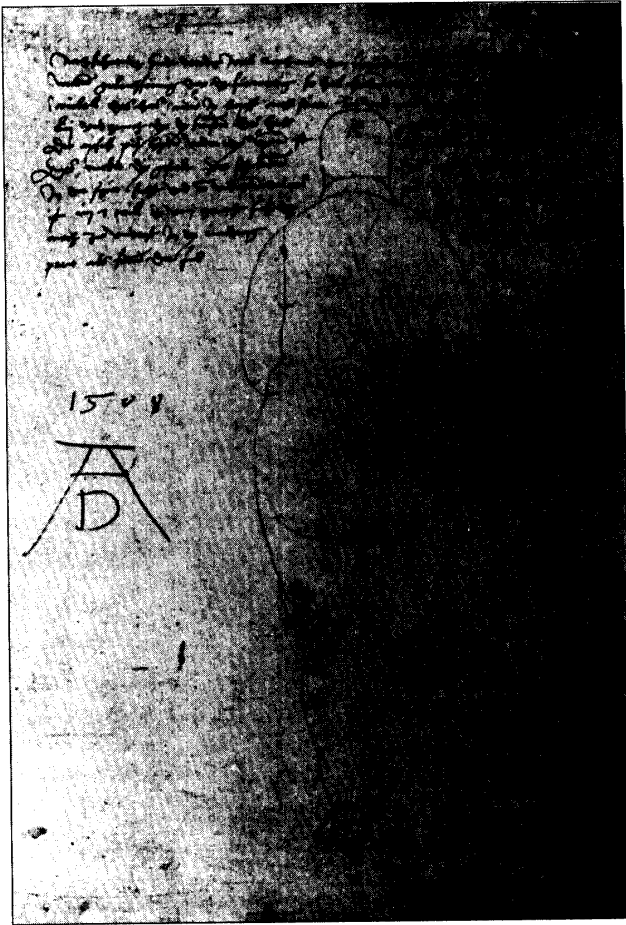
Nr. 5 若い女性の比例。頭部：3素描の構想。側面・正面図。身体：側面像。腕。正面・背面像。（ロンドン草稿，1508年頃，R. 2. 239～244頁）

1

まだ成長しきっていない若い女性を描くことにする。

最初の像に記されたように、3方形を描き、〔図10のように〕並立させる。隅の最初の方形は高さ以身長の1/8である。顔の側面図をそれに描く。次の方形の高さは1/8、幅は1/10であり、それに顔の正面図を描く。

最初の像に記されたように、下の方形はいま述べられた2方形から描かれる。

図9 ロンドン草稿 5228, fol. 133^a.

2

まだ成長しきっていない若い女性を描く。

最初の像について記した方法でなされ、ただ尺度 (mas) を変えるだけである。

女性像は8頭身である。

頭部から始める。顔の側面図は1/8の高さの長方形に含まれる。

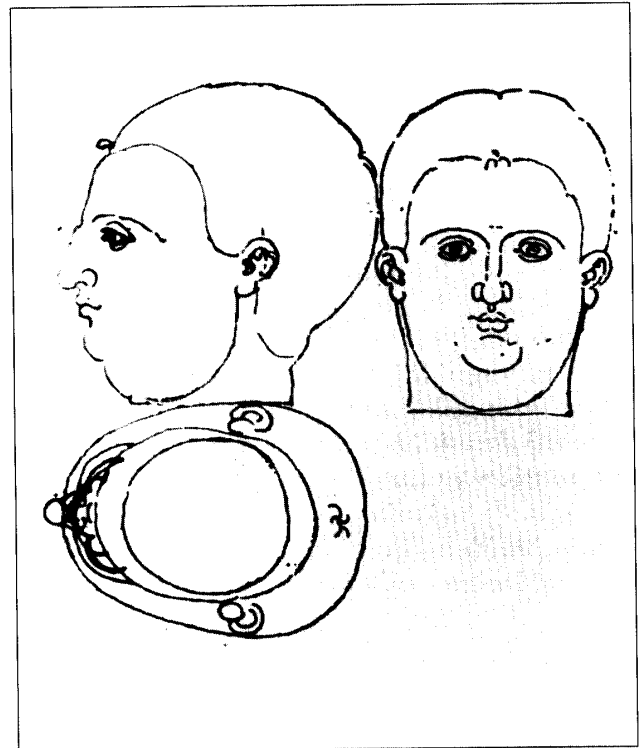
顔の正面図のためのつぎの方形の高さは、側面図と同じであり、その幅は女性の全長の1/11である。

顔の平面図のための下の方形は、いま述べた2方形から斜線で描かれる。

まず顔の側面図の〔諸部分の〕全ての高さを水平線で区切る。

頭頂部から1/9下の位置で、顎を始める。

その1/9の高さを4等分する。上は髪のある頭部、

図10 ロンドン草稿 5231, fol. 8^b.

次は額(下端は眉毛)、第3は鼻、最後は口と顎である。

最後の1/4を2等分する。その下部は顎である。上部を2等分し、中央の線は口の中央を通る。この2部分を更にそれぞれ2分する。上唇と下唇は別々の部分になり、〔上唇の上〕空の部分は鼻下の溝になり、下の空の部分は下唇の下のくぼみになる。

このように顎上は4等分される。

眉毛と鼻の下端の間を4等分する。上を区切る線は眼の中央を通る。次の線は眼の円さの下を通る。第3線は鼻翼の上に接する。

眼は〔上記4等分の上の方の〕上下2部分のなかにある。その上部を3等分する。眉毛と眼の間のくぼみは上の1/3にある。瞼の厚さは次の1/3にある。眼の〔上〕半分は第3の1/3にある。瞼の両隅は眼の中央を通る線まで弧状に下がる。その中央線の下部も3等分する。眼の〔下〕半分は上の1/3にあり、眼の下の瞼は次の1/3にあり、第3の1/3はくぼみになる。

水平線による〔顔の〕諸部分の高さと低さについては以上述べられた。これから垂線による〔顔の〕諸部分の全ての奥行きについて述べよう。方形の後ろから〔全長の〕 $1/10$ 前方に垂線を引く、その垂線と〔前記の〕頭部と額を分ける水平線との交差点を a とし、そこに〔額の〕旋毛がくる。 a から同じ水平線の $1/11$ 後方を e とし、そこに後頭部中央のつむじがくる。〔そこから〕頭部は円弧状に線を描いて、方形の最も上の水平線に接する。また e のつむじから頭部は円弧状に線を描いて、方形の後ろの眉毛の水平線上の f まで下がる。顎と額の旋毛の間に、旋毛 a から b までと c から d までの2本の交差線を引く。〔次の図11から b は鼻先、 c は a を通る水平線と方形の左側辺との交点、 d は顎下を指す。〕 c と b は方形の前の側辺と、眉毛と鼻の下端を通る2水平線とのそれぞれの交点にある。 a と d は方形の後ろから $1/10$ 前方にある垂線と、額の旋毛と顎を通る2水平線とのそれぞれの交点にある。

方形の前から $1/8 \times 1/7$ 後方に垂線を引く。その線上に鼻の後端がくる。方形の前から $1/8 \times 1/4$ 後方に垂線を引く。その線上に目じりの端がくる。垂線 $a d$ に口の后端と眼球の前は接する。後の図〔図11〕にみるように、目頭はその垂線より出て、それと鼻翼の後端に接する垂線との間の半ばまでくる。眉毛はその水平線上で方形の前から $1/8 \times 1/7$ 後方で始まり、方形の前から $1/8 \times 1/3$ 後方にその後端がきて、眼を通る水平線まで下がる。斜線 $c d$ と顎を通る水平線との交点から、顎らしい形で線を弧状に前方に描いてから d の方に戻し、また上記の水平線上で d から頭部の最下端まで顎の線を描く。水平線上の顎から頭部の最下端まで $1/12$ である。後頭部の線は頭部らしい弧状を描きながら上にのぼり g にいたり、さらに円く外に張り出して上に向かい f にいたる。〔 g と f は図11に記される。〕頭部の線は後ろに微妙な形で反りながら下に引かれる。方形の最下での頸部の厚さは $1/14$ である。頸部から顎下までの肉の線は円やかな感じで顎まで引かれなければならない。

次に額と鼻の形を斜線 $a b$ 上に描く。それらが小さすぎると、奇形になる。額はその性質上斜線

をややこえるように膨らむ。眉毛はそれを通る水平線より少し下に下がる。鼻は鼻翼とともに美しい形で斜線の下に描かれる。口は線 $c d$ 上でその凹凸に注意しながら巧みに引かれなければならない。それについて詳しく記さなければならないだろうが、ここでは述べない。耳は方形の後ろから $1/8 \times 1/7$ 前方にあり〔この箇所は図11と異なり、また実際に不自然であるが、ここでは一応このように訳しておく〕、その幅と長さは $1/8 \times 1/7$ で、耳の長さは、眼と鼻

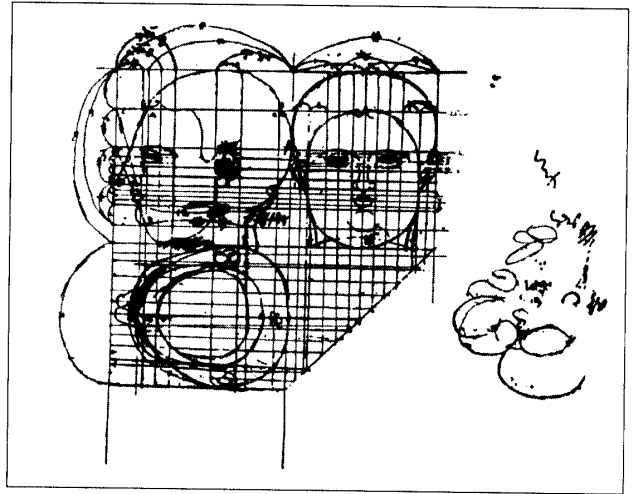


図11 ロンドン草稿 5231, fol. 9^a.

先を通る2本の水平線に接する。耳朶の長さとは幅はその $1/4$ である。他の部分もその形に応じて弧を描く。そして髪の毛の線を耳の横にそれらしく下ろす。

3

顔の正面の方形を垂線で区切ることにする。

まず2垂線で3等分する。その2線と眼を通る水平線との交点に、眼球の中心はある。

鼻と口の中心を通る垂線を引いて、顔がシンメトリーになるようにする。

鼻の幅は、下の最大部で、顔の方形幅の $1/6$ である。

眼の長さも鼻の幅と同じである。目頭は、鼻の最大幅を示す垂線に接する。

それで全ての垂線を引けば、〔顔の方形内は〕7と6の部分に分けられる。〔この文の意味は不明である。上記からすれば8部分に分けられるはずである。〕両側の2部分はまだうめられていない。それらの2部分

を線でそれぞれ2等分する。その外側の部分の、〔前記の耳の長さに接する2〕水平線の示す位置に耳を定める。

耳朶の幅はその半分である。それは内側の部分になる。それで耳は2部分を占める。

頭部の線は弧状を描いて高まる。頭部の額の半ばで方形にぎりぎり接して以後すぼまり、円く上

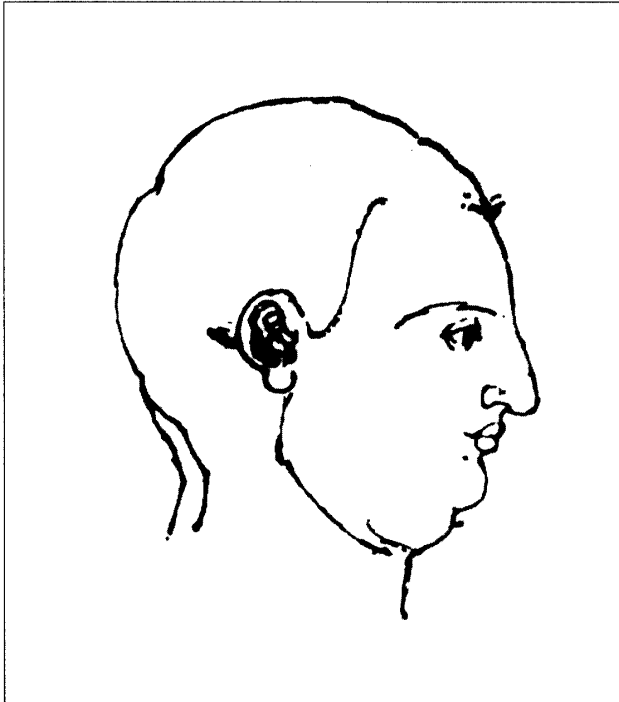


図 12 ロンドン草稿 5231, fol. 9^b.

に膨らんで、方形中央の終結点に接する。

頬は耳に接する線の所で、膨らみながら内に向かう。そこから頭部は弧状を描いて、方形の中央までそれらしい形で下る。

頸部の始まる〔頭部の〕最下部での頸部の幅は1/16で、そこから頸部は両側で頬の最も張り出した所の耳の垂線と水平線〔の交点〕まで反りながら上る。

顎はその線上で鼻より幾分か幅広く弧を描く。

口の幅は鼻ほどではない。口の端はそれらしい形で反る。

鼻翼の幅は鼻の1/2である。

鼻の最も細い最上部の幅は下部の1/3である。

眉毛の線を鼻の頂きから引き始め、眼の上を通して、眼球の幅と同じ長さだけ眼球を通る水平線まで下げる。

図に見るように、以上述べたことを全て実際に描きなさい。

次に最初の顔に記されたように、側面・正面の2図から第3の平面図を描く。

若い女性の側面像を描くことにする。

身長を示す線分 a b を引き、それを水平線で次の順序で区切る。〔草稿に身長を文字で記した最初の例—ルップリッヒの注による〕

前に描かれた頭部を〔線分 a b の〕上の1/8の位置に定める。

頭頂部からのどの凹みまで1/6である。

のどの凹みから脇腹まで2/11である。

頭頂部から胸の乳頭まで1/4である。

胸の乳頭から臍まで1/8である。

脇腹から陰部の端まで2/11である。後者は全長の下半分にはいる。

脇腹から臀部の下端まで1/5である。臀部は上の腰の線まで弧状に張り出す。

全ての水平線上に肢体部分の厚さを記す。

頭部下の頸部の厚さは1/16である。

その下ののどの凹みの厚さは1/13である。頸部は中央で弧を描く。

乳頭の線での胸の厚さは1/8である。ただし乳頭は含まない。

のどの凹みと乳頭の間の下1/4で、胸は膨らみ始める。

胸の上端での厚さは1/9である。

脇腹の厚さは1/10である。

乳頭と脇腹間の上1/4で胸は膨らむ。胸下の厚さは1/9である。臍上の厚さは1/9である。腰の線での厚さは1/8である。陰部の線での臀部の厚さも1/8である。

臀部下の大腿部の厚さは1/10である。

膝関節の中央の厚さは1/16である。

膝から1/30下の脚の厚さは1/20である。

ふくらはぎ中央の厚さは1/15である。

ふくらはぎは膝下1/30から始まり、そこから1/8下に下端がくる。ふくらはぎ下端での脚の厚さは1/22である。その下の脚の最細部の厚さは1/30である。足の甲でまた幅広くなり、その厚さは1/28

である。

足の甲の高さは1/20である。足の長さは1/7である。

足の長さを3等分する。前の1/3が足指である。

足の高さも3等分する。下の1/3が親指である。

小指の厚さは親指の1/2であり、親指の方にのびている。

数字の記されている次の図(図13)に見るように、像全体に主な線を正しく描き入れなさい。

次に腕を描く。頭頂部から肩の上端まで2/11である。肩から肘までやはり2/11である。肩から腋下まで1/18である。

4

[図13に次の文が記される]

肘から指先まで1/4である。手の長さは1/10である。手の長さは3分される。中央は親指、先端は指、後部は手である。

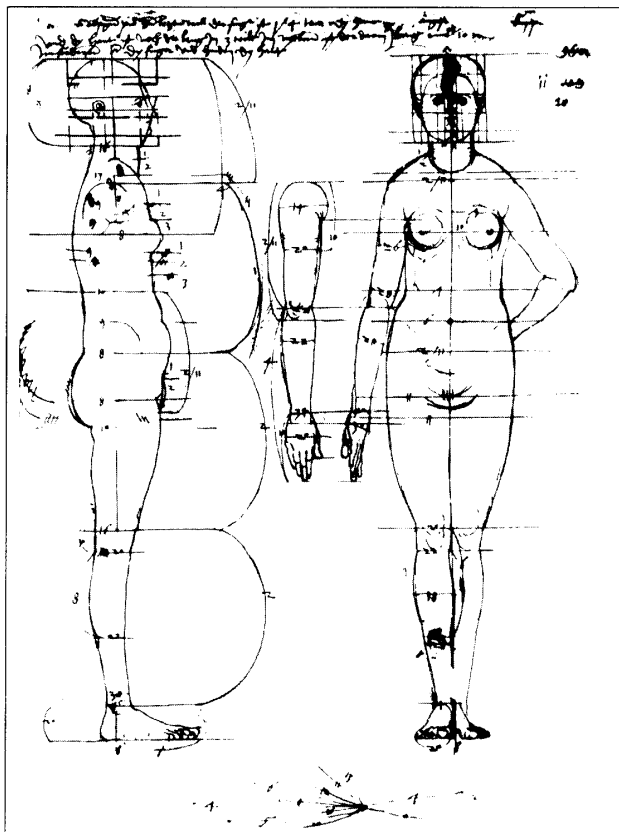


図13 ロンドン草稿 5231, fol. 20^a.

5

女性の側面像がすでに描かれ、その像から正面像を得るには、次のようにする。

線 a b を立て、女性側面像に引かれていた必要な全ての水平線をそれに通す。

まず前に描かれた頭部の正面図を1/8の長さでその位置に定める。

頭部の下の頸部の幅は1/16である。

肩関節での体の幅は2/11である。肩は関節から頸部の半ばまで弧を描く。

両腋間の幅は1/7である。

胸部の乳頭間の幅は1/10である。

脇腹での幅は1/7である。

臍での幅は1/6である。

腰での幅は2/11である。

大腿部の幅は1/11である。

膝での脚幅は1/20である。

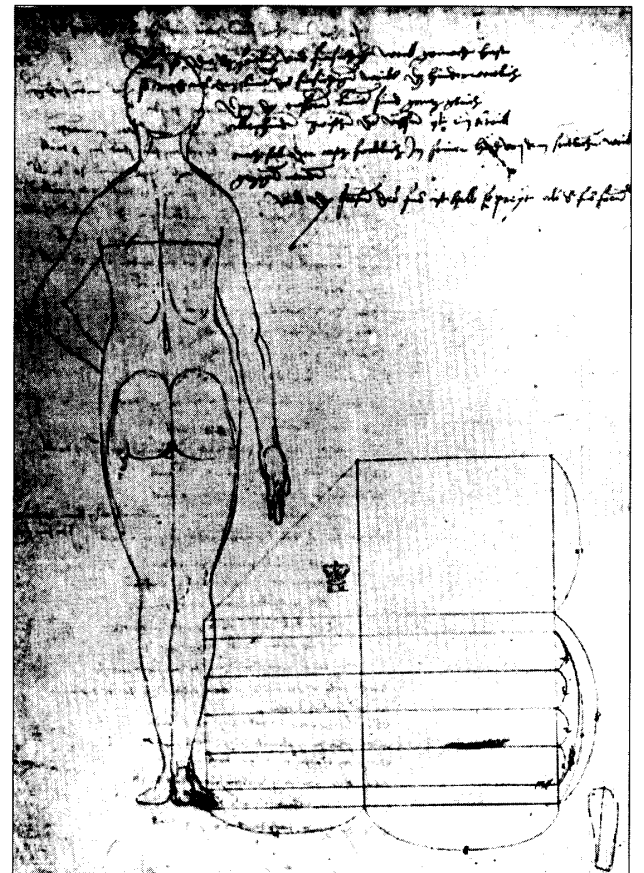


図14 ロンドン草稿 5231, fol. 21^b.

膝下での脚幅は $1/22$ である。

ふくらはぎでの脚幅は $1/18$ である。

外側のふくらはぎ下端は膝下 $1/7$ にある。

内側のふくらはぎ下端は膝下 $1/6$ にある。

そこでの脚幅は $1/28$ である。下の踝での幅は $1/4$ である〔 $1/40$ の間違いか〕。

足指上での足の幅は $1/20$ である。

肢体部分の全ての幅が測られたので、輪郭線をそれらしく描く。頸、腋、胸、腹、陰部を、図に見るように〔図13〕、正しい形で描く。

次に腕を描く。腕の側面の長さを測る。

腕上部の幅は $1/26$ である。

下の腕関節の幅は $1/28$ である。

肘での幅は $1/30$ 。

その下の最厚部の幅は $1/28$ 。

手関節の幅は $1/40$ 。

手の厚い部分の幅は $1/30$ 。

〔図14に次の文が記される〕

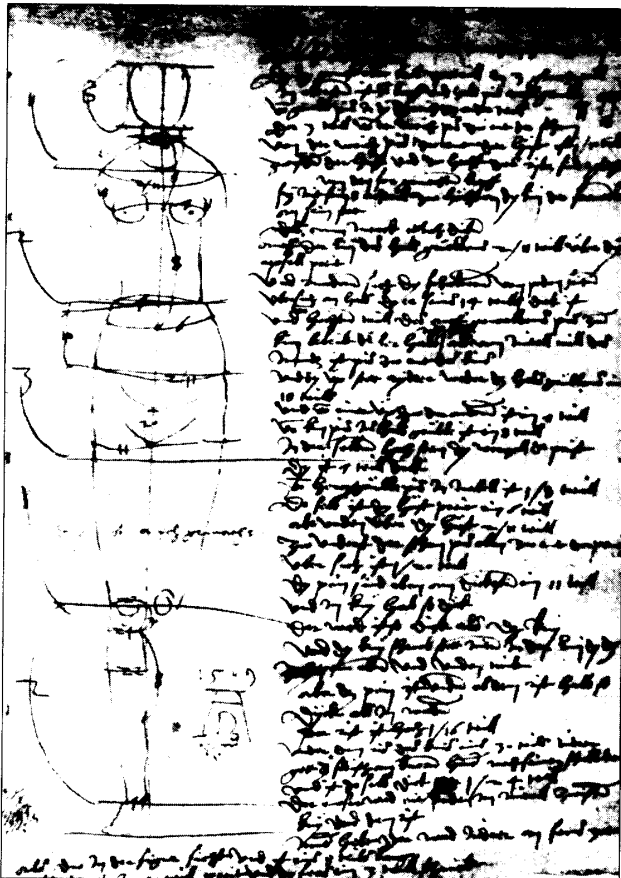


図 15 ロンドン草稿 5231, fol. 13^a.

女性の側面と正面像を描いたので、女性正面像の線から背面像を描く。輪郭線は全く同じであるから。背面の両腋間の幅は $1/6$ である。臀部の形も高さも女性側面像から描かれる。足の踵の幅は、足の前幅の $1/2$ である。

Nr. 6 断片のため省略。

Nr. 7 若い女性の比例。正面像の長さと同幅。
(ロンドン草稿, 1509の年記とモノグラム, R.2.246頁)

〔図15に次の文が記される〕

若い女性の、任意の身長線の線分を引く。中央より $1/50$ 下に水平線を引く。陰部の端はその線上にある。

線分上部を3等分する。上は頭部とのどの凹み、次はのどの凹みから脇腹まで、下は脇腹から陰部の端までである。

脇腹から腰の下端まで $1/10$ である。

腰と足の甲の間を2等分する。

前に描かれた頭部を、女性の身長線の線分の上の $1/8$ の位置に定める。

諸部分の幅について幾分か記す。

のどの凹みの線での肩幅は $2/11$ である。

肩は両側から上の頸部の方に弧を描く。頸部での肩幅は $1/14$ である。その線から頸までの長さは、口の中央から顎先までの長さと同じである。

腋はのどの凹みから $1/18$ 下にある。

両腋間の幅は $1/7$ である。

顎からのどの凹みまで $1/8$ である。

胸の乳頭は2つとも同じ高さにある。両乳頭間の幅は $1/7$ である。

のどの凹みから臍まで $1/8$ である。臍の線での腰の幅は $1/6$ である。その下の腰の幅は $2/11$ である。

陰部の下端から分割の上まで $1/20$ である。

大腿部の、上の最厚部の幅は $1/11$ である。膝の幅はその $1/2$ である。

ふくらはぎの幅は膝のそれと同じである。

膝蓋骨は脚の上下を区切る線上にある。

足の甲での脚の幅はふくらはぎのその $1/2$ である。

足の甲の高さは1/16である。

膝中央の1/30下で脚はそれらしくすぼまり、そこでの幅は1/24である。

外側のふくらはぎ下端は、膝と足の甲との中央にある。

内側のふくらはぎは、図に見るように、膝中央の1/30下から始まり、その長さは1/8である。

足の幅は1/22で、踝の幅はそれより1/3ほど細い。

Nr. 8 ほっそりした女性の側面像の比例。(ドレスデンのスケッチ帳から、1509の年記、R.2.247~248頁)
〔図16は以下の文の図示である〕

顎先までの頭部の長さを4分する。上は髪、次は額、その次は鼻、下は顎先までである。顎下の膨らみはその下になる。

もしくは顎から上に全長の1/11の長さをとって、それを顔の長さにする。さらに上の部分は額の上の髪である。1/11の長さを3等分する。それに額、

鼻、顎が含まれる。

耳の後ろの厚さは3/8である。耳の長さは鼻と同じで、それは眉毛の前と額の旋毛を通る垂線上の顎下の膨らみから、後ろの頸部までの厚さの、1/2である。

顔の長さは人の全長の1/11で、それに1/14だけ加えれば、それは頭部の長さの1/8になる。顎下の膨らみをこれに加える。

顎下の頸部の厚さは頭部のその1/2である。

線 a b 上に額は始まり、顎先もその線上にある。顔の形は線 a c に含まれる。鼻の下部は線 c d で形成され、b c の中央で終わる。〔図16から、a は額の旋毛、b は顎下、c は鼻先、d は鼻先を通る垂線と b を通る水平線との交点から b までの長さの midpoint、の各点を指す。〕

顎から眉毛までの長さは、眉毛からのどの凹みまでのそれに同じである。記し〔菩提樹の葉やクローバーの葉等〕のついた線は同じ長さである。

肩はのどの凹みと同じ高さにある。肩は頸部の中程の高さまで傾斜して上る。肩の厚さは頸部から眉毛までの長さと同じである。〔この箇所は直訳すると解り難いので、シュトラウスの英訳に従う。W.L. Strauss: Albrecht Dürer. *The Complete 'Dresden Sketchbook'* New York 1972, p.58. 参照〕肩の厚さは頸部の厚さでもある。

額の〔縦の〕長さは乳頭から胸の下端までのそれと同じである。胸下の胴体部の厚さは全長の1/9である。同様に脇腹での胴体部の厚さは1/10である。人体には同じ長さの部分が4つある。つまり、頭頂部から頸部まで、頸部から乳頭まで、乳頭から臍まで、臍から陰部の端までである。この4部分は〔長さ〕上下に重なる。臍から陰部の始まりまでの長さは、頸の最上部から眉毛までのそれと同じである。臀部での前の部分の厚さは1/8である。

〔臀部の厚さではない。図16の臍の線の下方の線に注目〕腹部の厚さも1/8である。

腹部が最も高まるこの線から下に、臀部は後ろに張り出して弧を描き始める。その弧は1/8の1/4だけ後ろに張り出し、臀部の下端は前の陰部より下になる。

のどの凹みから陰部の上端での腰の始まりまで

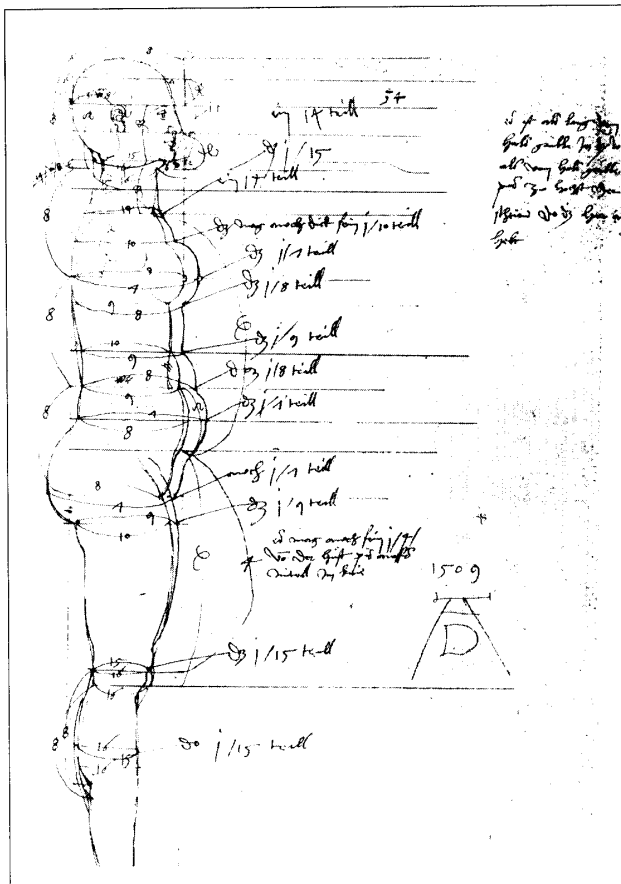


図16 ドレスデンのスケッチ帳, fol. 156 r. Strauss 28.

の長さは、そこから膝中央までのそれと同じである。膝の厚さは $1/16$ である。臀部の下の大腿部の厚さは $1/10$ で、図〔図16〕に見るように、膝近くになるにつれて細くなる。

足の長さは全長の $1/7$ で、その $1/3$ が足の高さである。外側の蹠は足の高さの中央にある。足指は足の長さの $1/3$ をしめる。親指の付け根の厚さは、足の高さの $1/3$ である。君の見るように、足指は段々細くなる。ふくらはぎの下端は膝下 $1/8$ にある。ふくらはぎでの脚の厚さは $1/16$ である。足の甲での脚の厚さは、顎の最上部から鼻下までの長さと同じである。

〔図16に次の文が記される〕

のどの凹みから脇腹までの長さは、のどの凹みから額の髪際までのそれと同じである。

〔人体像の右に記入された断片については省略〕

Nr. 9 断片のため省略

Nr. 10 女性の比例。頭部。側面・正面・背面像。
頭部の平面図。(ロンドン草稿, 1509/12年, R. 2. 249~250 頁)

頭部の高さはその全ての部分を含めて、並置される3つの方形とも、女性全長の $1/8$ である。

顔の側面を示す方形の幅は $1/8$ である。

顔の正面を示す方形の幅は $1/11$ である。

最初に顔の側面図を描く。この方形では垂線が肢体部分の全ての奥行きを区切る。それらの垂線に文字を記す。

方形の前の垂線を a, 後ろの垂線を b とする。

a から $1/9$ 後方に垂線を引き、それを c とする。この線は、頭部が頸部になる前の頭部特有のくぼみに接する。

a から $1/56$ 後方に垂線を引き、それを d とする。この線は、額の旋毛と下唇の前に接する。顎にも接する。

a から $1/48$ 後方に垂線を引き、それを e とする。この線は、眼球の前、鼻翼の後ろ、顎と下唇との間のくぼみの奥とに接する。

a から $1/24$ 後方に垂線を引き、それを f とする。

この線は、頭部の下の前の頸部に接する。

線 f から $1/16$ 後方に垂線を引き、それを g とする。この線は、後ろの頸部に接する。

a から $1/36$ 後方に垂線を引き、それを h とする。この線は、目じりと顎のくぼみの下に接する。

線 e から $1/20$ 後方に垂線を引き、それを j とする。この線は、耳を頬から区切る。

j から $1/18$ 前方に垂線を引き、それを k とする。この線は、上唇の前に接する。

a から $1/11$ 後方に垂線を引き、それを l とする。この線は耳の後ろに接する。

耳朶は頬の j l 間の〔前〕半分にはいる。

a から $1/28$ 後方に垂線を引き、それを m とする。この線は、眉毛の後ろに接する。

線 e から $1/10$ 後方に垂線を引き、それを n とする。この線は、後頭部のつむじに接する。

以上〔諸部分の奥行きを区切る〕垂線が引かれた。〔垂線が引かれた方形に〕頭部の諸部分の高さと低さを区切る水平線を引き入れ、それらの線にも文字を記す。まず上と下の水平線を a と b にする。

a から $1/32$ 下に水平線を引き、それを c とする。この線は、垂線 d と n とのそれぞれの交点で額の旋毛と後頭部のつむじに接する。

a から $1/16$ 下に水平線を引き、それを d とする。この線は眉毛と耳の上に接する。

c から $1/11$ 下に水平線を引き、それを e とする。この線は、顎の下に接する。

d e 間の中央の線を f とする。この線は、鼻の下に接し、また垂線 c との交点で後頭部のくぼみに接する。

額の旋毛から方形の前の下隅に直線を引く。この直線上での a b の交点で、鼻と額の形が描かれる。〔a と b は垂線 a と水平線 b を意味すると思われるが、この文の意味は幾分か不明。〕

d e 間を 4 等分し、最下部を水平線 g で区切る。この線は、鼻翼の上と耳の下に接する。

d e 間を 3 等分し、上の $1/3$ を区切る水平線を h とする。そこに眼全体がはいる。

眼の両隅は d h 間の中央になる。

目がしらに d e 間の中央を通る垂線が接する。

眼球は d h 間の中央で d h 間の 1/2 をしめる。それで 瞼は d h 間の上と下でそれぞれ 1/4 になる。

眉毛は水平線 d の上と下にのびる。

f e 間を水平線で 2 等分し、それを j とする。この線は、垂線 e との交点で顎の上に接する。

f j 間を水平線で 2 等分し、それを k とする。この線は、口の中央を通る。

口の奥行きは 2 垂線 e h の中央にある。

下唇の厚さは k j 間の上 1/2 である。下 1/2 は唇と顎の間のくぼみになる。

f k 間を 3 等分する。下の 1/3 は上唇の厚さになる。下の 2 つの 1/3 は鼻下の溝になる。

次の図に見るように、これらの垂線と水平線で顔の形を描き入れる。

次に 1/11 の幅の方形に顔の正面を描く。

この方形を 11 本の垂線で 12 等分し、それらの線を a b c d e f g h i k l とする。

線 f は額の旋毛、鼻、口、顎のそれぞれの中央を通る。

a は右耳と頬を区切る。l も左側で同様になる。

耳は方形の両側で外側の線に接する。下の耳朶は耳の含まれる幅の頬側の半分になる。

鼻は両鼻翼で 2 垂線 e g に接する。鼻先はその 1/2 の幅である。

右眼は両隅で 2 線 c e に接する。左眼は g i に接する。

2 つの眼球は 2 垂線 d h 上にある。

右の眉毛の端は垂線 b c 間の半ばにある。左の眉毛の端は垂線 i k 間の半ばにある。

口の両隅は 2 垂線 e g に接する。

顎の下部の幅は 1/17 である。

図に見るように、顔の形を描き入れる。

後頭部の輪郭線を正面図のそれから描く。

前述のように、頭部の側面図と正面図からその平面図を描く。

Nr. 11 女性の比例。側面・正面・背面像。腕。

(ロンドン草稿, 1509/12年, R. 2. 250~253頁)

1

女性の非常に良い比例。

像に必要な長さの線分を定める。

それを水平線で 2 等分する。

線分の中心から 1/7 上に水平線を引く。〔身長分の〕この垂線を、〔身体諸部分の〕全ての高低を示す水平線で区切る。

2

最初に〔諸部分の〕区切りについて記す。

これは成人した良い比例を示す女性の像である。

任意の長さの垂線を、3 本平行に引く。

最初は側面像を区切るためのものである。

次は正面像を区切るためのものである。

最後は背面像を区切るためのものである。

3 垂線の上と下に水平線を引き、それらの垂線の中心にも水平線を通す。

3 垂線に〔諸部分の〕全ての高低を示す水平線を通せば、3 垂線とも同じ区切りがつけられる。

頭頂部からのどの凹みまで 1/6 である。

のどの凹みから臍まで 2/9 である。

のどの凹みから心窩まで 1/12 である。

のどの凹みから胸まで 1/20 である。

のどの凹みから腋下まで 1/16 である。

のどの凹みから乳頭まで 1/11 である。

のどの凹みから胸下まで 1/9 である。

のどの凹みの 1/30 上から、肩肉は肩関節から頸部へと隆起する。

のどの凹みから脇腹まで 1/5 である。

頭部は前述のように 1/8 である。

のどの凹みの線から肘まで 1/5 である。

肘から手先まで 1/4 である。

手先から手首まで 1/11 である。

身体の中央から 1/7 上は脇腹か腰である。

脇腹から身体の中央下の臀部の端まで 1/6 である。

身体の中央と臀部の端との中間に、臀部の端がある。〔直訳するとこのようになるが、意味不明。〕

胴体部の脇腹から、大腿部の付け根の腰の端まで 1/10 である。

足裏の最下の水平線から、脚の最下の踝の始点まで1/30である。

腰といま挙げた踝との中央が、膝関節である。

膝蓋の下端は、膝中央から1/40下にある。

〔膝の〕下の丸みの下端は、膝中央から1/30下にある。

膝中央からふくらはぎ中央の最厚部まで1/11である。

大腿部の外側の膝中央からふくらはぎ下端まで1/8である。

大腿部の内側では1/7である。

足裏から足の甲の上まで1/20である。

以上で肢体部分の長さが測られた。

水平線上で一方の側に曲がる肢体部には最初に楕円をつける。〔やや意味不明。ルップリッヒの注によれば、正面像の素描の右側の、卵形に曲がった線が意味されているという。〕

1/8の頭部の下端を a とする。肩の上端の、次の線を b とする。のどの凹みの線を c とする。腋の線を d とする。胸下の線を e とする。脇腹の線を f とする。臍の線を g とする。腰の線を h とする。膝の線を j とする。足の踝の線を k とする。

側面像の垂線上の全ての部分に文字を記す。

線 a 上の頸部の幅は1/16である。

線 b 上も同じである。

線 c 上の、のどの凹みの幅は1/14である。

線 d の上の、胸の上の幅は1/9である。

胸の中央の幅は1/8である。

線 e での、胸骨の下の幅は1/9である。

線 f での脇腹の幅は1/10である。

臍を通る線 g 上の、身体の幅は1/9である。

腰を通る線 h 上の、身体の幅は1/7である。

陰部と臀部を通る線上の幅は1/8である。

臀部の下の大腿部の幅は1/9である。

膝上の幅は1/15である。

線 j 上の膝の幅は1/16である。

膝下の幅は1/19である。

ふくらはぎでの幅は1/15である。

ふくらはぎの下での幅は1/22である。

線 k の上の、足の甲の上の幅は1/30である。

足の長さは1/8である。

足関節は脚の踝の中央にある。

膝についても同様である。

〔ここに1文はいるが、意味不明のため本試訳では省略する。〕

線 g f e d c b a 上で〔側面像の〕身体の厚さは3分される。その1/3は垂線の後ろにあり、それは前記の背中の方に描かれる。2/3は前にある。というのも背骨は後方にあるから。

足の長さは3分される。前の1/3は足指である。足の両踝間の幅1/30を5分する。その内側の2つが親指の幅になる。小指はその半分である。

3

肩関節は線 c 上で始まり、〔腕における〕その中央の厚さは1/16である。

その下の腋での腕の厚さは1/16である。

肘の上の腕の厚さは1/24。

肘での腕の厚さは1/24である。

手首の幅は1/40。

手の長さを3等分する。中央の長さが親指である。

側面から見た手の厚さは1/38である。

腕の側面については以上の通りである。次図に見るように、全ての部分を秩序づけて人体らしく描かなければならない。

次に正面像を〔最初の垂線上から引かれた〕全ての水平線上に描く。肢体部の幅について記す。

頭部は前記のように、1/8の長さである。

頸部の幅は1/17である。

のどの凹みの線での幅は1/7である。

肩関節での幅は1/5である。

両腋間の幅は1/7である。その線上に心窩がある。

胸の両乳頭間の幅は1/11である。

脇腹での幅は1/7である。

臍上の幅は2/11である。

腰上の幅は1/5である。

陰部での大腿部の幅は1/10である。

膝の上の幅は1/17である。

膝中央の幅は1/19。

膝下の幅は1/20。

ふくらはぎ中央の幅は1/17。

ふくらはぎの下の幅は1/24である。

足の甲の上の幅は1/36。

指の上の足の幅は1/20である。

腋下の腕の幅は1/22である。

肘上の腕の幅は1/26である。

肘下の腕の幅は1/20である。

手首の幅は1/36である。

手の掌の幅は1/20。

次に女性の背面像を描く。正面像と同様にしますが、腋を正面像より低くする。それはのどの凹みの下1/12にくる。両腋間の幅は1/6である。正面の肩幅を背面のそれより広く見えるようにする。

臀部の分割の長さは1/10である。

膝窩は膝中央にある。

踵の幅は足の正面の半分である。

女性の正面像の腰幅を5点で6等分し、a bを定める。それらの点で腰の大腿部は曲がる。

肩関節は側面像の中央部にある。

腕の側面の、肩関節での厚さは1/14である。腋での厚さは1/16。肘上の厚さは1/24。肘での厚さも同じ。

肘下の厚さは1/22。手首の厚さは1/40。手の厚さは1/23。

挿図一覧

図1 ドレスデンのスケッチ帳, fol. 151r. Strauss

16.

図2 ロンドン草稿 5231, fol. 10^b.

図3 ロンドン草稿 5231, fol. 11^b.

図4 ロンドン草稿 5231, fol. 12^a.

図5 ロンドン草稿 5231, fol. 12^b.

図6 ドレスデンのスケッチ帳, fol. 145r. Strauss
17

図7 ロンドン草稿 5231, fol. 5^a.

図8 ロンドン草稿 5228, fol. 134^a.

図9 ロンドン草稿 5228, fol. 133^a.

図10 ロンドン草稿 5231, fol. 8^b.

図11 ロンドン草稿 5231, fol. 9^a.

図12 ロンドン草稿 5231, fol. 9^b.

図13 ロンドン草稿 5231, fol. 20^a.

図14 ロンドン草稿 5231, fol. 21^b.

図15 ロンドン草稿 5231, fol. 13^a.

図16 ドレスデンのスケッチ帳, fol. 156r. Strauss
28.

挿図説明の Strauss は、W. L. Strauss: *The Complete 'Dresden Sketchbook'* New York 1972. の略称である。また「ロンドン草稿」は、大英博物館所蔵のデューラー草稿を指す。

[本稿は本学における平成4年度研究特定図書 (*Repertorium für Kunstwissenschaft*) による研究成果の一部である。]